

支援の実際 編

Q1

トラブルを引き起こす子と 周囲の子への対応は？

まずは
ここから



- まずは、この子の立場に立ち、思いを聴きます。
- 学級集団にもこの子の思いを伝え、この子に寄り添えるようにします。
- その上で、大勢の子が共通してもっている力を生かし、学級集団全体のソーシャルスキルを高めるようにします。

すぐにけんかを始めるリョウさん（小2）とノザワ先生とのかかわりを紹介します。

リョウさん



友だちにリョウさんの悪い印象を与えたくないなあ



ノザワ先生

- 感情を受け止め、言葉で表現する。
- 不快感情が起きた場所から引き離す。

◆リョウさんの気持ちを代弁

周囲の子

至った気持ちを理解する。

学級全体でソーシャルスキル教育に取り組む
「仲間の誘い方」「仲間への入り方」「温かい言葉掛け」
「気持ちを分かって働き掛ける」等

感情のおさめ方や適切な怒り方を練習する。

練習場面で賞賛する

現場で賞賛する

理解の深まり

トラブルになりそうな場面で踏みとどまる。

自信の高まり

大きなトラブルが減少



【キーポイント】 周囲にとっては迷惑なトラブルも、この子なりの理屈・思いが基になって現れます。ですから、結果としてのトラブルばかりに目を奪われず、起きた状況を詳しく分析してこの子の思いを受け止め、どう思ったのか、どのような時にそうなるのかをつかむようにすることが大切です。その上で、行動の仕方について練習していきます。周囲の子には、その子の思いに共感しながら、付き合い方のコツを身に付けていけるように、ソーシャルスキル教育を積極的に取り入れていきます。

● ノザワ先生の願い

友だちとちょっとしたことでけんかしてしまうリョウさん。周りの友だちもそんなリョウさんに困っていました。でも、担任のノザワ先生は、リョウさんだけが悪者になることをなんとかして避けたいと思っていたのです。

そこで、リョウさんがトラブルを起こした時には、本人をその場から離してから、ノザワ先生がそのときの気持ちを友だちに代弁するようにしました。

「リョウさんは、みんなといっしょにやりたかったのよ」

「なんだ、そうだったんだね。リョウちゃんもやりたかったんだ」

「じゃあ、こんどはぼくがさそってあげようかな」

どうしてリョウさんがそんな行動を起こしてしまうのかを、子どもたちはだんだんと理解するようになってきました。

● 学級での取り組み

また、学級では、人と人との付き合い方を学ぶ勉強、つまり、ソーシャルスキルを高めるための学習に取り組みました。

* 友だちと一緒に遊びたいときの誘い方：「遊ぼう。いっしょにやろうよ」

* 誘われた時に仲間に入る方法：「ありがとう。いっしょにやるよ」

* 友だちが困っているときのやり方：「だいじょうぶ？」 「手伝うよ」

こんなふうに、相手の気持ちを想像して、自分だったらどうされたいかを考えて行動する仕方を、日常的に想定される場面ごとに体験を通して学べるようにしました。

● リョウさんへの指導

リョウさんも、「怒りたくなるときには数を数える」、「叩きたくなるときには『やめてよ』と言葉で感情を伝える」などの方法を、落ち着いている時に練習しました。

この練習と同じようにうまく対処できたとき、ノザワ先生は十分に褒めるようにしました。そんなことを繰り返すことで、リョウさんも自分の行動を、少しずつではありますが、コントロールできるようになりました。

友だちも「最近、リョウちゃん変わってきたね」と認めてくれます。こうして、本人の自信が高まると共に、周囲の子の理解も深まり、学級の中でリョウさんにまつわるトラブルが減少していきました。



ソーシャルスキル教育（「ソーシャルスキルトレーニング」と同義）

社会生活（ソーシャル）を送る上での様々な技術（スキル）を実際に体験（トレーニング）しながら身に付けるようにします。ゲームのように、身体を動かして取り組めるようにすることで、思いの外、楽しい体験ができます。